

B-10 米國に於ける道路技術研究の方向に對する
批判と日本の展開

森 豊 吉

一昨年の秋オクラホマ年次大會の議題に19州から提出された問題を整理分類すると12項になると福岡正己氏が土木ニュース第20號に載せられました。私は此12項を通覽して米國では次々と新なる道路問題に悩んで居るが未だ統一の新しい理論は難産の様に見受けられる。私の發明した Macadamix 工法は Anchoring, Interlocking, Wedging によつて骨材間の Friction を増大し、骨材表面の結合劑が始め Lubricant として働き Set してからは Cohesion によつて骨材表面間の Friction を増大させる工夫によつて Stability の條件を解決してゐる。水の不透透性と磨耗抵抗に對しては上層に小さい骨材と適當な結合材とを混和したものを使用してゐる。此理論は結合材がアスファルト、タール、粘土質又はセメントの何れであつてもあてはまり Resiliency に富んだ舗道が作れる。此理論からは道路用セメントはコロイド性のもので Air and Moisture Holding Capacity の大なるものが望ましい。